

2019年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

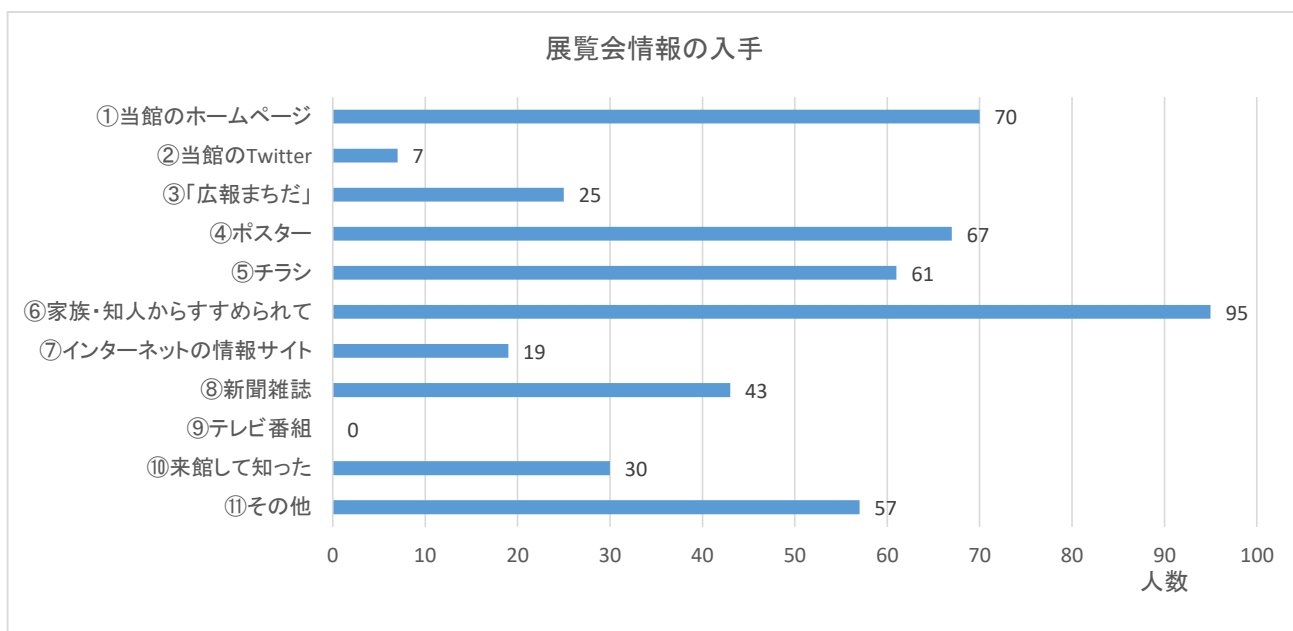
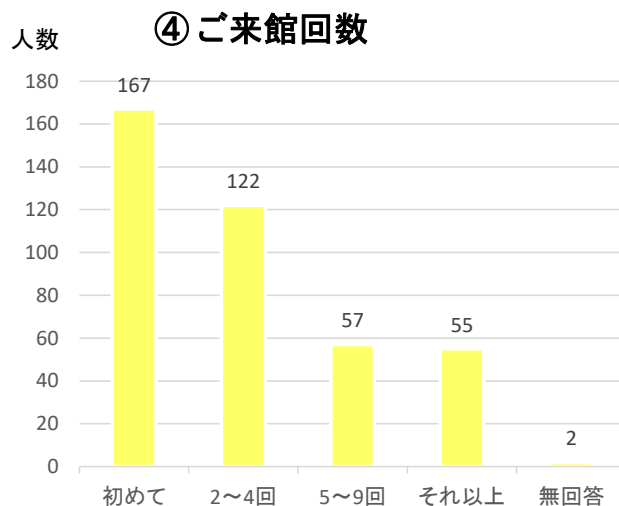
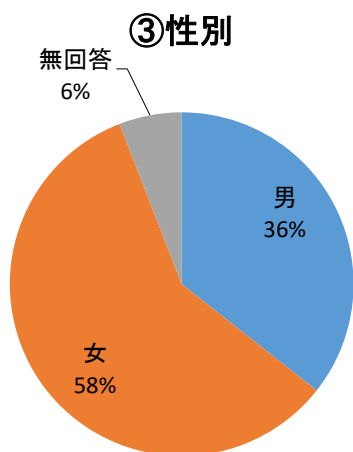
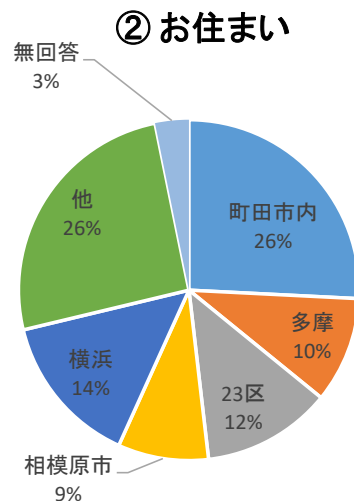
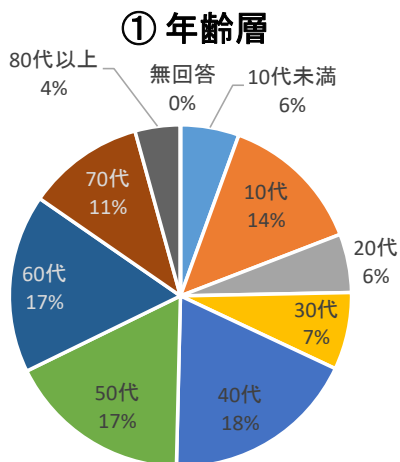
展覧会名	インプリントまちだ展2019―田中彰 町田芹ヶ谷えごのき縁起			担当者名	町村悠香			
会期	2019年7月6日(土)～9月23日(月・祝)			開催日数	69日			
協賛・後援・協力	【協力】奥野谷浜産業株式会社、株式会社上林製材所、せりがや冒険遊び場(NPO 法人子ども広場あそべこどもたち)、フジダン株式会社 【助成】一般財団法人地域創造、公益財団法人朝日新聞文化財団							
巡回館	なし							
展覧会概要	東京2020大会に向けて開催する「インプリントまちだ展」の第3弾。本シリーズでは若手アーティストが町田に取材した作品を発表してきた。本展では自然と人の関わりを木版画で表現してきた田中彰(たなか・しょう)を招へいした。田中は町田のなかで「木と人が築いてきた関係性」に注目し、芹ヶ谷公園の「エゴノキ」を根から掘り起こして作った版木を用いて、新作を発表した。							
ねらい・対象	一人の作家の個展というだけでなく、多くの人々とともに展覧会を作り上げていくことを目指し、展覧会開催までは田中の作品を深く理解する人々が映像・音響作品、特設スタジオ設計等で携わった。展覧会開催後は長期間にわたって作家が来館者参加型の滞在制作を行ったことで、老若男女幅広い市民・来館者を対象に、身近な場所で芸術作品制作に参加できる機会を提供した。さらに展覧会の最後には共同制作作品を完成させて展示したことで、作品の形でも多くの人々の関わりを可視化することをねらった。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	小学校連携授業 (普及係実施)	7月8日(月) 、7月9日(火)	町田市立第二小学校連携授業 「えごのきにかくれる 森のせいれいと 旅に出よう」	田中彰	67			
	来館者参加型 作家滞在制作	7月12日(金) ～9月15日(日)までの金・土・日 【26日間】 ※7月13日、26日、9月7日、8日は開催なし。	町田版画運動 版画でくみあげる町と人のみなもと	田中彰	201			
	滞在制作の成果発表	9月21日(土) ～23日(月・祝)	『町田芹ヶ谷えごのき縁起絵巻』発表会 (ロビー・企画展示室2) 3日間	田中彰	1240			
	鼎談	9月8日(日)	トークイベント	田中彰・時里二郎・柄澤齊	45			
	ギャラリートーク	8月12日(月・祝)	アーティストトーク	田中彰	47			
	ギャラリートーク	7月20日(土)、8月17日(土)	担当学芸員によるギャラリートーク	担当学芸員 町村悠香	22			
	特設ショップ	8月12日(月・祝) 、9月23日(月・祝)	ポップアップストア	ミセルくらしPUNTO	120			
	プロムナード・コンサート	9月7日(土)	ふめんのきおく おとののおと	玉川大学、桜美林大学	277			
観覧料	一般	65歳以上	大・高生					
	800 円	400 円	400 円					
観覧者数 (1/15現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	8,544 人	3,310 人	11,854 人	5,860 人	2,913 人	369 人	1443 人	— 人
	目標値	11,360 人						
主な収入 (1/15現在)	観覧料収入 ※畦地展含む	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源				
	5129 千円	— 千円	63 千円	878 千円				
事業経費	講師謝礼			60千円				
	協力謝礼			90千円				
	通信運搬費			417千円				
	作品額装業務委託料			229千円				
	HP多言語化業務委託料			291千円				
	イベント企画運営委託料			200千円				
	イベント企画運営委託料 市民交流事業			200千円				
	印刷物作成委託料			599千円				
	ディスプレイ作成委託料			694千円				
	展示撤去委託料			814千円				
				2861 千円				

主な広報・取材等の講評	【新聞】読売新聞(8月28日東京本社版夕刊文化面)、タウンニュース【ラジオ】エフエムさがみ、【WEB】美術手帖WEB版、Webマガジン「アートスケープ」、【雑誌】『版画芸術』						
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
	407 件	3.4 %	26 %	57 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2018年6月に招へい作家が決まり、作家の個展やグループ展に度々足を運ぶことで、作家の作品世界を理解することに努めた。2018年12月に樹木の掘り起こしをともに行うなど、プロセスを共有することで展示の充実を図った。					
	作品選択	旧作は田中の卒業制作から現在までの作品を「印刷物の歴史を追体験して」、「空飛ぶコーヒー豆の旅」の2章で紹介した。新作は展覧会開催までに完成したものを「きのからだをぬけて」、展覧会開催中に制作したものを「町田芹ヶ谷えごのき縁起」の章で展示した。展覧会開催後も小学校連携授業や滞在制作の進行にともなって作品を追加展示したため、会期中に繰り返し来館する方が多かった。					
	図録作成	展覧会への理解が深まる「副読本」という位置づけでA5判32ページの無料配布冊子を作成。作家に関するテキスト2名分と、担当学芸員による作品解説テキストを掲載した。さらに、「展覧会ドキュメント」で展覧会開催までのプロセスを写真と文章で紹介した。					
	ディスプレイ	「空飛ぶコーヒー豆の旅」の章は壁面に作品を散りばめるようにして展示し、作家の作品世界を体感できるよう工夫した。高い位置にある作品、細かい作品も見られるよう、作家の提案によりオペラグラスと虫メガネも設置し、鑑賞体験にも工夫をこらした。また音響によって視覚だけでなく聴覚にも訴えかける空間を作り、建築家が設計した強化段ボール製のベンチ状の什器を設置することで、長時間ゆっくりと鑑賞できる環境を整えた。					
	広報	作品制作や滞在制作のプロセスをSNSで積極的に発信する予定だったが、企画・イベント業務で手が回らず、途中経過のプロセスまで逐一発信することまでできなかった。途中から広報は、担当学芸員だけでなく作業分担したことで発信を続けることができた。今後も業務量に応じて分担しながら広報を継続していくことが必要だと感じた。 また、作家自身のSNS投稿、読売新聞東京本社版の文化面での紹介による集客効果が大きく、来館者数が目標を上回ることに結びついた。					
	イベント	来館者参加型の作家滞在制作「町田版画運動」を行い、会期を通して作家が制作し、来館者が制作体験や共同制作の担い手になれる形をとった。イベントのために特設スタジオも設置し、美術館ロビーに非日常的でありながら居心地のよい場所で制作を行えるようにし、これも含めて来館者からは非常に好評だった。まちサポボランティアに対応を依頼したことは運営の大きな支えになった。しかし長期間のプロジェクト型イベントをさらにきめ細かく支えるためのサポート体制の課題もみえた。					
	写真	全作品撮影可としたため、多くの人が写真撮影をして鑑賞を楽しんでいた。来館者が写真をSNS投稿してくれたことも大きな広報となった。					
その他特記事項	インプリントまちだ展シリーズが3年目となり、市民・来館者を巻き込んだ企画や機器を使用したインスタレーション型の展示の対応に対して、職員だけでなく受付・監視スタッフも習熟してきたことに会期中大いに助けられた。受付・監視スタッフが継続したメンバーであることでノウハウが蓄積し、鑑賞空間の魅力を向上させるとともに実施できる展示企画の幅が広がることを実感した。						

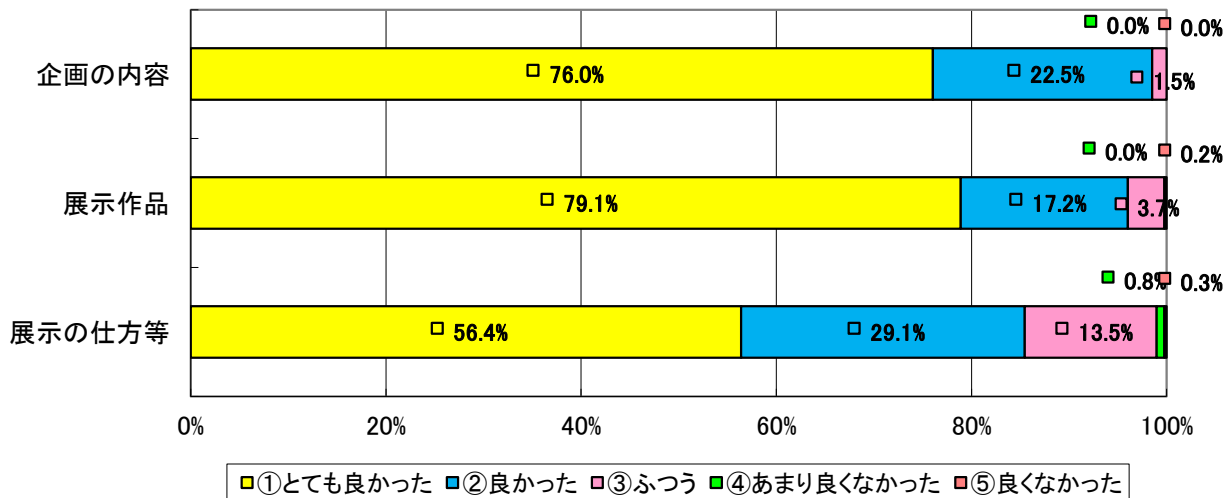
「インプリントまちだ展2019 田中彰 町田芹ヶ谷えごのき縁起」展  
アンケート集計結果

開催期間：2019年7月6日（土）～9月23日（月・祝）

回答者数： 407 人（総入館者数：11,854人 アンケート回収率： 3.4%）



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

### ◆田中彰について

作家の知人やSNSで知って来館したファンから、「田中のこれまでの作品が一堂にみられてよかった」、「作品の世界観に浸ることができた」など、期待に応える展示ができた。

畦地梅太郎展が来館目的だった方からは「初めて知った作家だが、優しい作品に心ひかれた」、「若手作家を紹介する試みをこれからも継続してほしい」、「生活に身近なものが作品となるのが興味深かった」、「公園のエゴノキを用いるプロジェクトの趣旨がよかった」などの好意的な意見が多かった。来館者にとって初めて知る若手作家を広く紹介することができ、同時開催のスタイルがうまく機能したことわかった。

### ◆展示について

「コーヒー豆の袋、ラベルの展示がよかった」、「音響があるのがよかった」、「ベンチがあったのでゆっくり作品を見られた」、「小学生の作品もあるのがよかった」など、展示の工夫が効果を発揮していた。一方で、「もう少し作品解説が欲しかった」、「コーヒー豆の中に絵が描かれていることを解説で書いたほうがよかった」など、作品に対する丁寧な説明を希望する声もあった。本展では鑑賞空間の世界観を優先し、解説部分の多くは配布冊子に集約した。そのような手法で展示する際、今後は冊子をみる誘導の文言を掲示するなどの工夫の必要であることがわかった。

### ◆イベントについて

「電熱ペンを使うことができ楽しかった」、「作家に直接会うことができよかった」など好評だった。

### ◆同時開催の展覧会について(畦地展共通)

「畦地展から田中彰展の流れが自然で心地よかった」など、両企画の組み合わせがよかったとの感想が目立った。

### ◆その他(畦地展共通)

「企画案内を広く知らせる方法を考えてほしい」といったPR不足や、「来るとき道に迷った」「駅からの案内